

報告ダイジェスト

- ・ 渋谷区「障害者週間」記念式典 (報告 1)
- ・ ブラインドサッカー選手権にて、サンシャインダンス発表 (報告 2)
- ・ ソフトバンク「かざして募金」始めました！ (報告 3)
- ・ 渋谷区障害者保健福祉計画 ③ (報告 4)

報告1 おめでとう！ 林 美樹さんが表彰されました

去る 12月6日(土)、ケアコミュニティ・美竹の丘にて渋谷区「障害者週間」記念式典が行なわれました。

渋谷区主催のこの式典では、自立生活をおくる障がいのある方達や、その支援にあたる方達の功績を称え表彰が行なわれています。今年度は13名の個人と1企業が対象者となりました。

ぱれっとからは、おかし屋ぱれっとで11年間働いている、林美樹さんが表彰されました。

●渋谷区長より表彰状授与



会場に、黒のスーツ姿で登場した林さんに「すごく似合っているね」とみんなから声を掛けられていました。そしてお祝いに駆け付けた仲間からの「おめでとう」の言葉に今まで緊張していた林さんの表情も和らぎ、いつもの笑顔が戻り式典に臨みました。

第一部の式典終了後、表彰状を携えた林さんに今の心境を聞いてみました。「表彰されてすごくうれしいです。表彰状は部屋に飾ります。これからも明るく、笑顔でみんなと仲良く仕事を頑張ります。」とこれからの抱負を話してくれました。

●ぱれっとハープオーケストラ登場



第2部では、「ぱれっとハープオーケストラ」による演奏も行なわれました。表彰者を自分たちの演奏で称えようとの意気込みの下、それぞれが仕事帰りに集まるなどして練習を重ねていました。

5人の団員が奏でるハープの美しい音色は美竹の丘に響き渡り、式典に華を添えました。他の発表団体の演目も会場を大いに盛り上げ、惜しみない拍手が送られて式典が終了しました。

(おかし屋ぱれっと職員 前川浩一)

報告2 ブラインドサッカー世界選手権でサンシャインダンス発表!

4年に一度開催される「ブラインドサッカー」の最高峰の闘い、「IBSA ブラインドサッカー世界選手権 2014」が、11月16日(日)～24日(月祝)に国立代々木競技場にて開催されました。この大会に出場したのは、各大陸予選を勝ち抜いた日本を含む15ヶ国。そんな大きな大会の開幕戦のハーフタイムにて、サンシャインダンスがパフォーマンスをしてきました! 10月に行なわれた恵比寿文化祭同様、今回も「ソーシャルワーカーズ」の皆さんと合同でのステージです。当日は天候に恵まれ、爽やかな秋晴れの中1000人を超える観客と共に盛り上がりました。会場に到着するなり、前回の規模を上回る舞台を目の当たりにして「ああ、緊張する～」と、皆そわそわした様子。「元気に楽しく踊ろうね」と声を掛け合いいざ本番! 「あんなに練習したのに本番はあっという間だったね」「失敗しちゃったけど楽しかったね」など、皆それぞれ達成感を得ることが出来たようです。これからも、サンシャインダンスのパワーを様々な場面で発揮したいですね!

(たまり場ぱれっとボランティア 神岡初季)



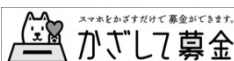
報告3 ソフトバンク「かざして募金」のご紹介

ぱれっとでは、この度ソフトバンク提供の「かざして募金」の利用を開始しました。このサービスは「ぱれっとのマークにスマートフォンをかざすだけで簡単に寄付ができる」「パソコンからでも簡単に手続き」「寄付金は毎月の携帯使用料金と一緒に精算」というサービスです。ぜひご利用下さい。



こちらにかざす↓

ポスターやチラシ等にかざすだけのシンプル操作



ソフトバンクの
スマートフォンをお持ちの方

- ①「かざして募金」のソフト(アプリ)をダウンロード(※)
- ②ソフトを起動後、左のぱれっとマークにかざす
- ③ぱれっとの寄付ページで金額を選択 **完了!**

※パソコンからはこちらへ↓

<http://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/select.jsp?corp=181>

ソフトバンク以外の
スマートフォンをお持ちの方

- ①「かざして募金」のソフト(アプリ)をダウンロード。
- ②ソフトを起動後、左のぱれっとマークにかざす
- ③ぱれっとの寄付ページで決済手続きなど必要事項を入力後、金額を選択 **完了!**

※パソコンからはこちらへ↓

<http://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/creditSelect.jsp?corp=181>

※「かざして募金」のソフトは  Available on the App Store または  Google play から

ダウンロードできます。ご不明な点はぱれっと事務局(03-5766-7302)へ。

報告4 渋谷区障害者保健福祉計画 ③

昨年12月、渋谷区自立支援協議会福祉計画部会で、答申案が発表されました。

65頁に渡る福祉計画の基本的方向性を示した内容は、渋谷区がこれから取り組もうとしている姿勢が読み取れます。

●計画の基本理念

「障がいのある人がその人らしく暮らす共生社会を実現させること」

福祉計画の理念として共生社会の実現をうたっています。障がいのある人の暮らしには様々なものがあります。それぞれのライフステージの段階において、必要な福祉サービスと支援を受け、社会全体で合理的配慮がされることにより自分らしい暮らしの実現が可能となります。

計画づくりの目標は、障がいのある人がその人らしく暮らす渋谷区を実現させること、共生社会の実現を阻んでいる要因を浮き彫りにし、暮らしを支援するしくみを確立していくことです。

●6項目からなる施策

自分らしい暮らしの実現に向けて、新たな施策として6項目からなる支援の категорияが確立されました。

生活する・住む・育つ・働く・
健康を保つ・理解し合う

◎生活する：自分らしく生活し続けるための支援

住み慣れた地域での生活を支えるサービス提供体制の整備。具体的には、相談支援体制や情報サービス移動支援サービスの提供。

◎住む：多様な暮らしの場の整備

障がいの重度化・高齢化或いは障が

いの種別といった多様な暮らし方のニーズに即した環境や施設整備。

◎健康を保つ：保健・医療・看護・介護との連携

疾病の早期発見と適切な治療やリハビリテーションによる健康の維持

◎育つ：個性と成長に応じた家族ぐるみの健やかな発達支援

乳幼児期における障がいの早期発見と早期療育並びに相談支援と発達支援機関の整備。

◎働く：多様な就労の場・社会参加の場の整備と継続

障がいの種別や特性に応じた多様な働き方が選択できる環境整備

◎理解し合う：誰もが安心して暮らせるまちづくり

法律で定められた「障がいを理由とする差別の解消」に基づき、障がいのある人への正しい理解を深める取組み

●パブリックコメント

1月5日から19日まで、この計画に対する一般の方からの意見を集約するためのパブリックコメントが実施されます。2月には最終の答申書が提出されます。1年という短期間でここまで福祉計画が形づくられたことは、区職員並びに福祉計画部会事務局の大変な労力がありました。数値目標達成が単に計画の主眼とならないよう、自立支援協議会が担うオンブズマン的役割は大きいように考えます。行政や福祉関係施設が民間や企業と協働することで、障がいのある人たちの生活全般が豊かになるよう実効性のあるものと期待されます。

(認定NPO法人ばれっと理事長 相馬宏昭)

渋谷区ニュースにてパブリックコメント制度により広く意見を募集しています。

<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/city/news/pdf/20141215/p3.pdf>